

2024年3月14日  
株式会社日本政策金融公庫**令和5年農業景況DIは、マイナス幅が縮小**

～ 生産コスト高が継続、令和6年農業景況DIも引き続きマイナス幅縮小の見通し ～

&lt;農業景況調査（令和6年1月調査）&gt;

日本政策金融公庫（略称：日本公庫）農林水産事業は、融資先の担い手農業者を対象に「農業景況調査（令和6年1月調査）」を実施しました。

調査結果のポイントは以下のとおりです。

**<農業景況DI>**

- 令和5年の農業景況DI（▲26.9）は、令和4年実績から12.2ポイント上昇するも、マイナス値が継続する結果となりました。また、業種別では特に酪農（北海道：▲56.8）、肉用牛（▲52.1）で大幅なマイナス値となりました。
- 令和6年の農業景況DIの見通し（▲6.5）は、令和5年実績から20.4ポイント上昇する見込みとなりました。

**<生産コストDI>**

- 令和5年の生産コストDI（▲84.6）は、令和4年実績から3.7ポイント上昇するも、依然として大幅なマイナス値が継続する結果となりました。また、全業種で▲75.0以下の大幅なマイナス値となりました。

**<設備投資予定>**

- 令和6年に「設備投資予定あり」とする比率（48.9%）は、令和5年から3.9ポイント上昇し、耕種では稲作（都府県：54.4%）、畜産では養豚（56.9%）が最も高くなりました。また、酪農（北海道：34.5%）、肉用牛（37.9%）、ブロイラー（38.9%）は4割を下回りました。
- 令和6年に実施予定の設備投資の内容について、農業全体では「農機具・機械装置」（64.9%）が最も高く、次いで「建物・ハウス・構築物」（29.9%）となりました。
- 「農地等の取得」は、稲作（北海道：25.9%）が最も高く、次いで肉用牛（20.2%）となりました。また、酪農は稲作、畑作などの耕種と同水準となりました。

■詳細は、添付のレポートをご参照ください。

# 農業景況調査（令和6年1月）

～農業の景況、今後の経営について～

## ～目次～

I .農業の景況 .....	P3 ～ 12
II .今後の経営について .....	P13 ～ 17

## ○調査概要

- 調査時期: 令和6年1月
- 調査方法: 往復はがきによる郵送アンケート及びインターネット併用調査
- 調査対象: スーパーL資金又は農業改良資金のご融資先のうち22,291先
- 有効回答数: 6,947先(回収率31.2%)

(内訳)

稲作(北海道): 619、稲作(都府県): 1,742、畑作: 614、露地野菜: 721  
施設野菜: 616、茶: 109、果樹: 379、施設花き: 195、きのこ: 78、  
酪農(北海道): 263、酪農(都府県): 282、肉用牛: 550、養豚: 221、  
採卵鶏: 123、ブロイラー: 95、その他: 340

<お問い合わせ先>

日本政策金融公庫 農林水産事業本部 情報企画部(担当: 高田、米山) TEL: 03-3270-5585  
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-9-4 大手町フィナンシャルシティ ノースタワー

# I. 農業の景況(景況DI、収支DI)

- ・令和5年の農業景況DI (▲39.1→▲26.9)は令和4年実績から12.2ポイント上昇し、マイナス値が縮小。  
業種別では特に酪農(北海道:▲87.7→▲56.8)、肉用牛(▲62.0→▲52.1)で大幅なマイナス値となった。
- ・令和6年見通し(▲26.9→▲6.5)は令和5年実績から20.4ポイント上昇し、マイナス値が縮小する見込み。
- ・収支DI(▲43.1→▲32.1)は令和4年実績から11.0ポイント上昇するも、マイナス値が継続。

## 1. 景況DI

	25年 実績	26年 実績	27年 実績	28年 実績	29年 実績	30年 実績	R1年 実績	R2年 実績	R3年 実績	R4年 実績	R5年 実績	R6年 見通し
農業全体	▲ 1.4	▲ 33.7	16.8	20.0	21.2	▲ 11.1	6.0	▲ 24.9	▲ 29.6	▲ 39.1	▲ 26.9	▲ 6.5
稲作(北海道)	▲ 4.2	▲ 67.2	20.1	▲ 4.9	39.7	▲ 51.8	26.5	▲ 3.6	▲ 55.2	▲ 44.3	▲ 49.3	▲ 21.9
稲作(都府県)	▲ 10.2	▲ 71.0	▲ 3.8	23.6	10.3	▲ 10.7	11.4	▲ 33.4	▲ 55.9	▲ 39.5	▲ 22.1	2.6
畑作	▲ 27.6	▲ 5.3	35.2	▲ 17.6	34.8	▲ 22.7	31.6	▲ 32.3	0.2	▲ 31.8	▲ 49.2	▲ 27.8
露地野菜	15.1	▲ 15.7	14.3	14.7	7.5	▲ 3.4	▲ 9.3	▲ 32.8	▲ 21.4	▲ 15.5	▲ 17.5	1.1
施設野菜	15.6	▲ 8.4	20.3	26.3	15.0	▲ 1.4	▲ 22.4	▲ 28.1	▲ 32.3	▲ 28.8	▲ 11.7	5.4
茶	▲ 44.8	▲ 55.0	▲ 53.1	11.1	26.5	▲ 14.5	▲ 53.1	▲ 78.0	▲ 0.9	▲ 15.5	▲ 31.2	▲ 3.8
果樹	6.3	▲ 12.7	11.5	25.6	21.8	20.6	7.5	▲ 16.8	11.9	▲ 7.7	▲ 2.7	16.0
施設花き	▲ 2.8	▲ 34.4	▲ 5.9	11.8	▲ 10.6	▲ 13.7	▲ 20.2	▲ 40.2	5.8	▲ 3.2	▲ 19.5	▲ 5.2
きのこ	4.7	▲ 20.7	15.2	1.1	▲ 2.5	▲ 21.0	▲ 23.2	3.0	▲ 40.8	▲ 59.8	▲ 7.7	▲ 1.3
酪農(北海道)	▲ 9.4	▲ 4.1	55.9	57.6	44.8	25.0	30.3	▲ 19.3	▲ 32.8	▲ 87.7	▲ 56.8	▲ 11.9
酪農(都府県)	▲ 23.8	▲ 30.9	29.3	52.2	12.6	2.5	8.4	▲ 16.4	▲ 39.5	▲ 84.8	▲ 45.7	▲ 1.5
肉用牛	20.5	▲ 1.2	48.5	50.3	17.5	4.7	▲ 0.2	▲ 43.9	▲ 3.1	▲ 62.0	▲ 52.1	▲ 13.7
養豚	43.6	67.5	48.8	26.2	59.4	▲ 27.2	▲ 4.1	44.3	▲ 36.4	▲ 74.2	▲ 31.7	▲ 30.3
採卵鶏	43.9	28.6	71.0	40.8	32.7	▲ 61.2	▲ 38.9	▲ 43.8	22.6	▲ 65.4	65.1	▲ 66.9
ブロイラー	▲ 22.4	10.4	51.9	27.4	55.3	15.9	14.7	6.4	▲ 2.1	▲ 41.1	▲ 14.7	▲ 19.0

※景況DIは農業経営が「良くなった・良くなる」とする構成比(%)から「悪くなった・悪くなる」とする構成比(%)を差し引いたもの

## 2. 収支DI

	25年	26年	27年	28年	29年	30年	R1年	R2年	R3年	R4年	R5年
農業全体	▲ 7.0	▲ 39.7	14.2	16.7	14.7	▲ 20.1	▲ 1.5	▲ 27.6	▲ 35.1	▲ 43.1	▲ 32.1
稲作(北海道)	▲ 14.4	▲ 72.4	21.3	▲ 13.7	43.0	▲ 63.3	17.9	▲ 1.8	▲ 57.6	▲ 50.3	▲ 51.0
稲作(都府県)	▲ 22.0	▲ 76.7	▲ 6.5	23.8	2.2	▲ 18.8	4.5	▲ 38.5	▲ 60.5	▲ 43.5	▲ 29.1
畑作	▲ 35.8	▲ 13.8	33.9	▲ 24.7	28.1	▲ 27.5	29.0	▲ 37.4	▲ 3.0	▲ 36.5	▲ 54.3
露地野菜	8.9	▲ 23.6	5.7	13.1	▲ 0.9	▲ 14.8	▲ 18.4	▲ 36.9	▲ 27.3	▲ 19.8	▲ 24.9
施設野菜	9.3	▲ 19.5	15.3	20.3	5.6	▲ 11.8	▲ 27.2	▲ 29.2	▲ 39.3	▲ 34.6	▲ 17.4
茶	▲ 43.8	▲ 59.0	▲ 52.4	8.1	25.8	▲ 16.1	▲ 54.0	▲ 76.3	▲ 5.4	▲ 22.1	▲ 40.7
果樹	0.9	▲ 20.3	6.3	19.3	12.0	7.4	▲ 4.9	▲ 25.3	4.9	▲ 13.2	▲ 13.8
施設花き	▲ 8.5	▲ 39.2	▲ 8.1	9.1	▲ 24.6	▲ 22.0	▲ 22.3	▲ 38.2	7.3	▲ 11.2	▲ 25.2
きのこ	7.0	▲ 17.1	11.4	▲ 1.0	▲ 3.8	▲ 24.7	▲ 30.5	4.4	▲ 46.3	▲ 57.3	▲ 3.8
酪農(北海道)	▲ 10.5	▲ 12.6	55.5	57.0	36.8	7.4	17.6	▲ 24.3	▲ 45.9	▲ 86.3	▲ 58.6
酪農(都府県)	▲ 25.4	▲ 34.3	25.4	48.4	1.7	▲ 3.3	▲ 3.6	▲ 14.5	▲ 45.9	▲ 86.7	▲ 45.2
肉用牛	20.2	▲ 7.6	50.8	48.6	7.0	▲ 4.1	▲ 7.3	▲ 48.4	▲ 12.3	▲ 64.4	▲ 55.7
養豚	44.9	69.9	50.2	19.1	57.9	▲ 34.9	▲ 7.8	47.0	▲ 43.1	▲ 66.0	▲ 30.7
採卵鶏	56.7	31.3	63.0	44.8	31.9	▲ 62.8	▲ 46.0	▲ 40.6	14.7	▲ 68.3	58.5
ブロイラー	▲ 22.4	6.0	42.3	29.1	55.3	4.3	5.4	8.9	▲ 5.2	▲ 44.2	▲ 22.4

※収支DIは収支実績が「良くなった」とする構成比(%)から「悪くなった」とする構成比(%)を差し引いたもの

# I. 農業の景況(資金繰りDI、販売単価DI)

- ・資金繰りDI (▲37.2→▲26.4)は令和4年実績から10.8ポイント上昇した。業種別では特に酪農(北海道: ▲75.6→▲48.1、都府県: ▲80.6→▲42.2)、肉用牛(▲55.4→▲43.9)で大幅なマイナス値となった。
- ・販売単価DI(▲6.4→10.6)は令和4年実績から17.0ポイント上昇し、5年ぶりのプラス値となっている。業種別では特に採卵鶏(83.9→83.6)で大幅なプラス値となった。

## 3. 資金繰りDI

	25年	26年	27年	28年	29年	30年	R1年	R2年	R3年	R4年	R5年
農業全体	▲ 0.9	▲ 29.2	7.6	15.5	15.5	▲ 4.7	0.4	▲ 16.3	▲ 24.7	▲ 37.2	▲ 26.4
稲作(北海道)	▲ 0.7	▲ 52.4	8.2	▲ 2.5	23.8	▲ 30.4	7.9	▲ 1.5	▲ 40.4	▲ 40.4	▲ 38.4
稲作(都府県)	▲ 6.7	▲ 59.2	▲ 10.7	13.5	7.3	▲ 5.9	4.9	▲ 22.0	▲ 41.6	▲ 34.6	▲ 24.9
畑作	▲ 17.0	▲ 10.4	19.9	▲ 3.3	23.3	▲ 5.3	14.7	▲ 15.4	▲ 3.7	▲ 26.6	▲ 37.5
露地野菜	7.2	▲ 14.2	2.3	14.2	2.7	▲ 6.4	▲ 13.5	▲ 27.6	▲ 21.3	▲ 22.6	▲ 22.8
施設野菜	8.1	▲ 10.6	16.0	19.8	11.5	0.8	▲ 19.3	▲ 25.2	▲ 31.0	▲ 33.7	▲ 18.9
茶	▲ 32.5	▲ 43.7	▲ 41.3	4.3	20.2	▲ 8.0	▲ 40.5	▲ 48.3	▲ 5.3	▲ 27.8	▲ 23.9
果樹	1.4	▲ 14.8	1.4	14.7	8.6	8.9	2.0	▲ 11.8	4.2	▲ 13.5	▲ 10.8
施設花き	▲ 9.8	▲ 34.4	▲ 6.8	7.3	▲ 5.9	▲ 6.9	▲ 15.2	▲ 32.9	7.3	▲ 18.6	▲ 25.3
きのこ	0.0	▲ 29.3	10.1	1.0	7.5	▲ 24.7	▲ 29.0	▲ 6.0	▲ 24.7	▲ 64.6	▲ 20.5
酪農(北海道)	▲ 5.0	▲ 6.3	39.2	45.7	36.3	21.1	24.9	▲ 12.0	▲ 30.3	▲ 75.6	▲ 48.1
酪農(都府県)	▲ 14.4	▲ 26.2	26.5	42.1	16.4	5.4	1.6	▲ 6.7	▲ 41.9	▲ 80.6	▲ 42.2
肉用牛	9.7	▲ 6.1	27.8	34.6	16.9	8.7	0.7	▲ 25.6	▲ 8.4	▲ 55.4	▲ 43.9
養豚	37.1	59.3	45.0	32.4	55.6	▲ 7.1	2.3	37.7	▲ 24.5	▲ 61.4	▲ 28.5
採卵鶏	39.0	26.8	56.0	44.8	31.1	▲ 30.2	▲ 28.6	▲ 32.3	15.6	▲ 47.5	59.3
プロイラー	▲ 16.4	3.0	38.5	29.1	50.0	27.6	17.4	5.0	1.1	▲ 30.5	▲ 15.8

※資金繰りDIは資金繰りが「楽になった」とする構成比(%)から「厳しくなった(苦しくなった)」とする構成比(%)を差し引いたもの

## 4. 販売単価DI

	25年	26年	27年	28年	29年	30年	R1年	R2年	R3年	R4年	R5年
農業全体	▲ 11.1	▲ 40.0	13.1	26.1	24.3	2.1	▲ 6.9	▲ 42.2	▲ 42.6	▲ 6.4	10.6
稲作(北海道)	▲ 51.9	▲ 88.6	10.1	19.9	54.4	▲ 5.9	▲ 2.4	▲ 48.3	▲ 83.5	▲ 15.7	16.4
稲作(都府県)	▲ 58.7	▲ 88.2	7.0	33.4	36.0	16.9	13.4	▲ 64.9	▲ 83.9	▲ 6.5	23.1
畑作	▲ 36.2	▲ 30.5	▲ 15.4	▲ 3.5	▲ 2.1	▲ 1.9	▲ 8.6	▲ 57.5	▲ 15.5	▲ 11.2	▲ 22.8
露地野菜	17.0	▲ 33.5	▲ 10.0	16.5	▲ 7.8	0.8	▲ 43.1	▲ 42.2	▲ 29.4	▲ 8.5	8.7
施設野菜	▲ 0.4	▲ 32.8	▲ 0.6	26.0	8.7	▲ 11.6	▲ 31.2	▲ 34.4	▲ 43.1	▲ 5.9	8.3
茶	▲ 62.1	▲ 64.0	▲ 59.4	▲ 1.3	18.1	▲ 41.1	▲ 63.5	▲ 78.0	▲ 5.3	▲ 16.4	▲ 23.0
果樹	▲ 1.4	▲ 25.4	10.9	34.9	28.0	15.0	15.7	3.1	16.5	11.4	30.1
施設花き	▲ 21.1	▲ 47.0	▲ 15.4	7.3	▲ 28.6	▲ 23.3	▲ 25.3	▲ 48.0	15.2	34.6	20.7
きのこ	1.2	▲ 22.0	▲ 6.4	▲ 18.2	▲ 11.3	▲ 39.6	▲ 46.4	▲ 4.5	▲ 55.6	0.0	38.4
酪農(北海道)	36.0	59.3	85.9	79.3	67.8	47.6	33.0	▲ 37.8	▲ 53.2	▲ 62.7	12.4
酪農(都府県)	51.7	23.0	61.7	50.7	14.4	17.6	34.2	▲ 23.7	▲ 36.5	2.9	40.3
肉用牛	59.0	46.4	85.8	76.4	17.1	20.4	▲ 21.5	▲ 62.6	▲ 4.3	▲ 45.1	▲ 52.9
養豚	70.1	84.1	26.9	▲ 15.1	63.6	▲ 55.0	▲ 24.5	52.8	▲ 21.8	36.9	19.2
採卵鶏	82.3	53.6	74.0	▲ 12.0	1.7	▲ 66.7	▲ 53.2	▲ 57.5	32.0	83.9	83.6
プロイラー	▲ 22.4	10.4	28.8	▲ 9.7	37.5	▲ 11.6	▲ 28.3	5.1	▲ 1.0	15.8	10.5

※販売単価DIは生産物の販売価格が「上昇した」とする構成比(%)から「下落した」とする構成比(%)を差し引いたもの

# I. 農業の景況(生産コストDI、雇用状況DI)

- ・生産コストDI(▲88.3→▲84.6)は令和4年実績から3.7ポイント上昇したものの、大幅なマイナス値が継続。また、全業種で▲75.0以下の大幅なマイナス値となった。
- ・雇用状況DI(▲37.0→▲37.6)は令和4年実績から横ばいながらマイナス値が続き、労働力不足を示している。

## 5. 生産コストDI

	25年	26年	27年	28年	29年	30年	R1年	R2年	R3年	R4年	R5年
農業全体	▲ 62.9	▲ 66.3	▲ 44.7	▲ 19.1	▲ 25.2	▲ 37.1	▲ 38.8	▲ 36.2	▲ 68.1	▲ 88.3	▲ 84.6
稲作(北海道)	▲ 63.0	▲ 69.0	▲ 44.1	▲ 24.2	▲ 18.8	▲ 36.9	▲ 40.4	▲ 33.7	▲ 67.5	▲ 89.6	▲ 90.6
稲作(都府県)	▲ 43.6	▲ 53.2	▲ 36.5	▲ 11.5	▲ 11.2	▲ 18.2	▲ 19.3	▲ 30.8	▲ 56.3	▲ 82.7	▲ 80.3
畑作	▲ 70.4	▲ 78.2	▲ 63.7	▲ 32.6	▲ 28.4	▲ 38.5	▲ 45.6	▲ 41.5	▲ 63.2	▲ 88.5	▲ 90.5
露地野菜	▲ 65.1	▲ 67.5	▲ 56.8	▲ 28.9	▲ 40.0	▲ 46.3	▲ 53.1	▲ 44.7	▲ 67.9	▲ 90.2	▲ 85.9
施設野菜	▲ 64.5	▲ 63.4	▲ 41.0	▲ 26.5	▲ 39.9	▲ 49.0	▲ 57.6	▲ 46.0	▲ 78.9	▲ 88.7	▲ 85.2
茶	▲ 68.5	▲ 72.5	▲ 30.1	▲ 11.1	▲ 32.2	▲ 46.7	▲ 51.6	▲ 25.4	▲ 71.7	▲ 86.0	▲ 85.4
果樹	▲ 55.8	▲ 67.0	▲ 48.4	▲ 31.3	▲ 37.3	▲ 39.0	▲ 48.1	▲ 40.2	▲ 55.1	▲ 83.2	▲ 81.5
施設花き	▲ 70.7	▲ 72.8	▲ 33.5	▲ 21.9	▲ 48.6	▲ 53.5	▲ 55.7	▲ 40.2	▲ 87.0	▲ 93.1	▲ 91.2
きのこ	▲ 64.0	▲ 74.4	▲ 43.0	▲ 22.4	▲ 28.8	▲ 59.2	▲ 56.6	▲ 44.8	▲ 76.5	▲ 91.5	▲ 87.2
酪農(北海道)	▲ 81.9	▲ 80.4	▲ 46.4	▲ 4.9	▲ 35.2	▲ 48.2	▲ 37.1	▲ 45.4	▲ 81.0	▲ 95.1	▲ 88.5
酪農(都府県)	▲ 83.5	▲ 83.6	▲ 46.6	▲ 0.7	▲ 32.9	▲ 40.4	▲ 46.6	▲ 38.5	▲ 81.4	▲ 95.6	▲ 75.2
肉用牛	▲ 83.1	▲ 81.9	▲ 63.1	▲ 37.3	▲ 41.3	▲ 46.7	▲ 37.4	▲ 30.9	▲ 80.8	▲ 91.7	▲ 87.3
養豚	▲ 69.6	▲ 59.8	▲ 17.7	16.9	12.1	▲ 37.0	▲ 24.7	▲ 19.1	▲ 85.7	▲ 97.5	▲ 79.2
採卵鶏	▲ 79.9	▲ 78.6	▲ 32.0	11.2	▲ 12.0	▲ 49.6	▲ 46.9	▲ 41.7	▲ 83.4	▲ 93.5	▲ 83.7
ブロイラー	▲ 76.1	▲ 59.7	▲ 44.2	▲ 4.8	▲ 16.1	▲ 23.2	▲ 28.0	▲ 20.3	▲ 63.2	▲ 88.4	▲ 77.8

※生産コストDIは生産の費用(コスト)が「下がった」とする構成比(%)から「上がった(コスト増)」とする構成比(%)を差し引いたもの

## 6. 雇用状況DI

	25年	26年	27年	28年	29年	30年	R1年	R2年	R3年	R4年	R5年
農業全体	-	-	▲ 26.3	▲ 33.6	▲ 36.8	▲ 34.7	▲ 34.9	▲ 32.0	▲ 35.6	▲ 37.0	▲ 37.6
稲作(北海道)	-	-	▲ 26.7	▲ 35.6	▲ 39.0	▲ 41.2	▲ 36.9	▲ 38.4	▲ 36.4	▲ 40.8	▲ 39.7
稲作(都府県)	-	-	▲ 18.8	▲ 27.3	▲ 27.8	▲ 27.6	▲ 29.5	▲ 28.4	▲ 29.7	▲ 36.0	▲ 37.5
畑作	-	-	▲ 33.6	▲ 40.8	▲ 45.0	▲ 40.9	▲ 42.7	▲ 37.5	▲ 41.2	▲ 41.4	▲ 40.9
露地野菜	-	-	▲ 34.9	▲ 41.5	▲ 43.4	▲ 36.7	▲ 38.2	▲ 36.2	▲ 39.0	▲ 36.8	▲ 35.5
施設野菜	-	-	▲ 24.1	▲ 30.8	▲ 33.0	▲ 30.9	▲ 30.1	▲ 24.9	▲ 34.6	▲ 29.8	▲ 33.4
茶	-	-	▲ 26.6	▲ 30.8	▲ 37.7	▲ 40.7	▲ 39.5	▲ 29.7	▲ 36.3	▲ 36.2	▲ 36.1
果樹	-	-	▲ 25.6	▲ 32.0	▲ 36.8	▲ 36.9	▲ 36.0	▲ 31.6	▲ 37.4	▲ 41.8	▲ 43.0
施設花き	-	-	▲ 26.8	▲ 31.6	▲ 34.4	▲ 31.8	▲ 29.9	▲ 26.7	▲ 41.0	▲ 31.4	▲ 28.9
きのこ	-	-	▲ 26.6	▲ 37.6	▲ 41.2	▲ 42.0	▲ 42.0	▲ 34.9	▲ 49.4	▲ 40.7	▲ 45.5
酪農(北海道)	-	-	▲ 40.4	▲ 45.0	▲ 52.5	▲ 44.1	▲ 38.7	▲ 31.9	▲ 42.1	▲ 39.8	▲ 38.5
酪農(都府県)	-	-	▲ 25.8	▲ 28.0	▲ 27.6	▲ 26.3	▲ 35.3	▲ 27.5	▲ 35.9	▲ 31.7	▲ 34.3
肉用牛	-	-	▲ 24.7	▲ 28.7	▲ 34.3	▲ 32.4	▲ 32.9	▲ 33.2	▲ 31.6	▲ 33.4	▲ 37.4
養豚	-	-	▲ 35.6	▲ 44.5	▲ 44.3	▲ 32.7	▲ 29.8	▲ 26.3	▲ 36.0	▲ 35.3	▲ 34.6
採卵鶏	-	-	▲ 31.0	▲ 43.2	▲ 47.4	▲ 41.1	▲ 38.9	▲ 33.3	▲ 41.8	▲ 47.6	▲ 42.3
ブロイラー	-	-	▲ 15.4	▲ 21.4	▲ 36.4	▲ 25.0	▲ 37.4	▲ 21.8	▲ 34.7	▲ 29.8	▲ 32.3

※雇用状況DIは雇用状況の実績が「過剰である」とする構成比(%)から「不足である」とする構成比(%)を差し引いたもの

# I. 農業の景況(設備投資ありの比率、設備投資額)

- ・令和6年に「設備投資予定あり」とする比率(45.0%→48.9%)は、令和5年から3.9ポイント上昇した。特に耕種では稲作(都府県:54.4%)、畜産では養豚(56.9%)が最も高くなった。
- ・酪農(北海道:34.5%)、肉用牛(37.9%)、ブロイラー(38.9%)は4割を下回った。
- ・「設備投資予定あり」と回答した先のうち、45.1%が昨年に比べ設備投資額が「増加する」と回答している。

## 7. 設備投資予定ありの比率

【単位:%】

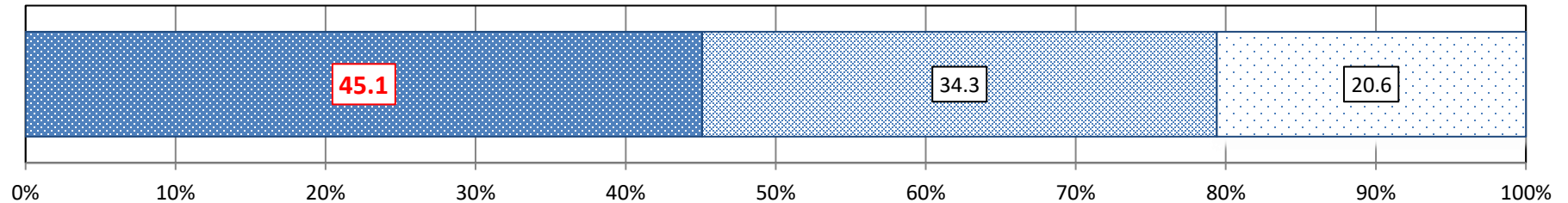
	26年 当初計画	27年 当初計画	28年 当初計画	29年 当初計画	30年 当初計画	R1年 当初計画	R2年 当初計画	R3年 当初計画	R4年 当初計画	R5年 当初計画	R6年 当初計画
農業全体	39.5	34.5	43.6	51.8	46.6	44.3	44.3	46.1	46.3	45.0	48.9
稲作(北海道)	39.7	26.1	44.1	48.6	45.2	41.0	43.2	42.3	41.1	44.0	46.8
稲作(都府県)	46.1	32.5	45.1	53.5	49.8	47.0	49.1	51.2	49.1	51.7	54.4
畑作	37.6	37.2	50.1	54.1	53.2	49.7	53.1	52.7	54.0	49.1	51.7
露地野菜	41.1	34.8	41.9	50.8	44.6	43.8	38.1	43.1	43.2	43.8	52.6
施設野菜	35.8	34.6	38.6	46.3	40.2	38.0	33.3	35.7	38.2	37.8	46.6
茶	32.2	30.3	28.2	45.7	40.5	40.7	31.2	35.1	36.6	40.5	40.6
果樹	33.6	31.7	38.2	45.5	33.5	35.2	34.2	42.4	49.0	49.5	51.5
施設花き	27.7	26.3	28.1	41.1	30.8	28.8	35.4	38.4	45.5	45.2	46.6
きのこ	43.0	36.6	44.9	47.3	43.2	51.9	36.8	50.7	56.8	43.2	51.9
酪農(北海道)	27.8	36.4	42.0	53.7	46.1	44.3	43.7	40.8	38.6	33.2	34.5
酪農(都府県)	35.9	42.8	38.3	58.0	49.4	48.4	42.2	45.1	44.6	32.3	41.8
肉用牛	36.5	41.1	49.9	56.8	46.2	45.1	48.5	42.0	48.6	40.4	37.9
養豚	49.3	55.9	54.4	62.1	58.0	45.5	50.2	54.0	51.2	45.6	56.9
採卵鶏	39.8	46.5	54.0	61.3	61.2	44.2	52.4	56.8	44.7	48.8	48.4
ブロイラー	38.8	47.8	55.8	59.7	51.8	55.1	58.7	49.4	49.0	34.7	38.9

## 8. 昨年と比べた今年の設備投資額の見込み

■ 増加する

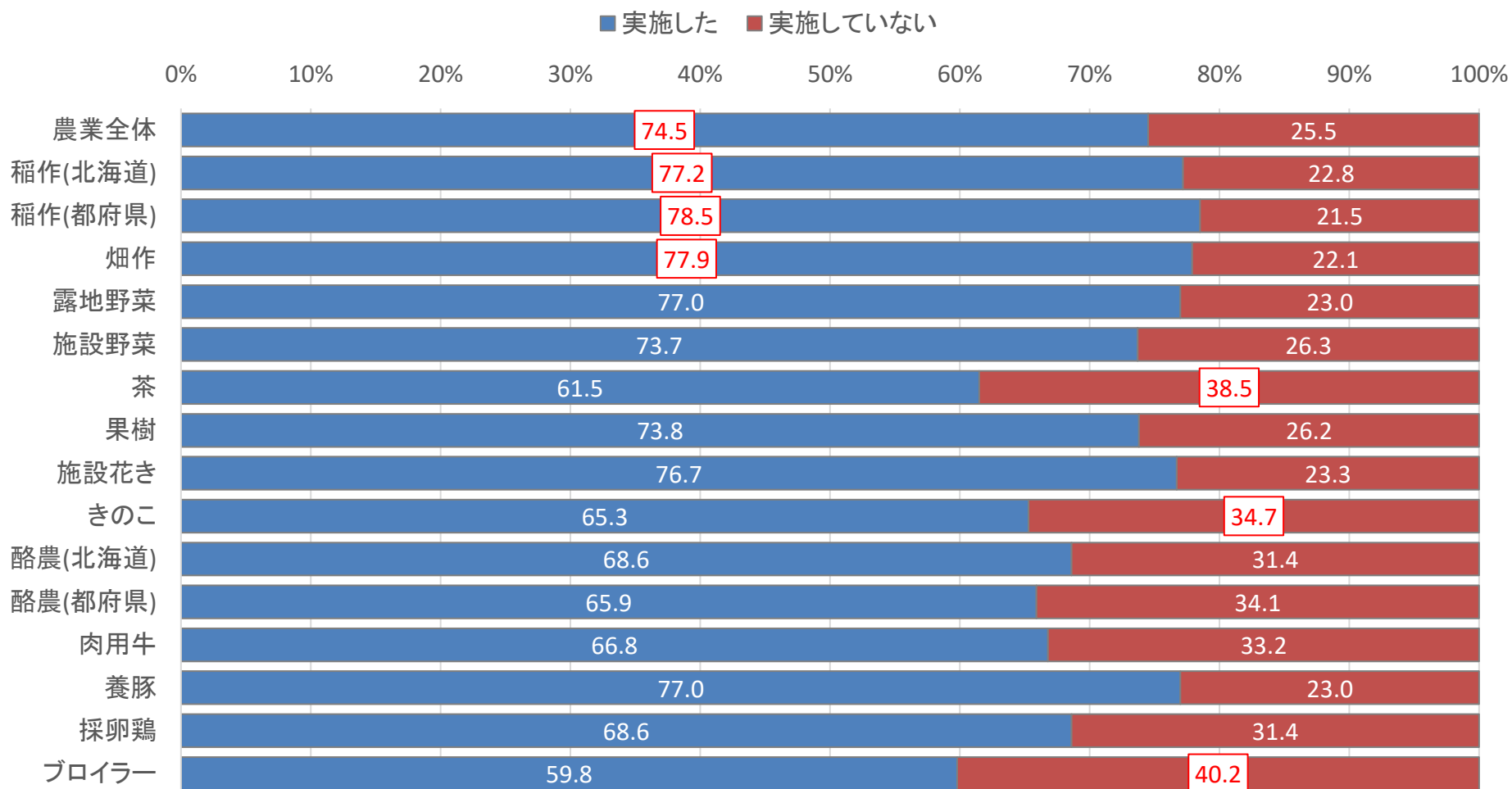
■ 同程度

□ 減少する



# I. 農業の景況(令和5年の設備投資の実施状況、業種別)

- ・農業全体では「実施した」とする割合は74.5%となった。業種別では稲作(都府県:78.5%)が最も高く、次いで畑作(77.9%)、稲作(北海道:77.2%)となった。
- ・「実施していない」とする割合は、ブロイラー(40.2%)が最も高く、次いで茶(38.5%)、きのこ(34.7%)となった。

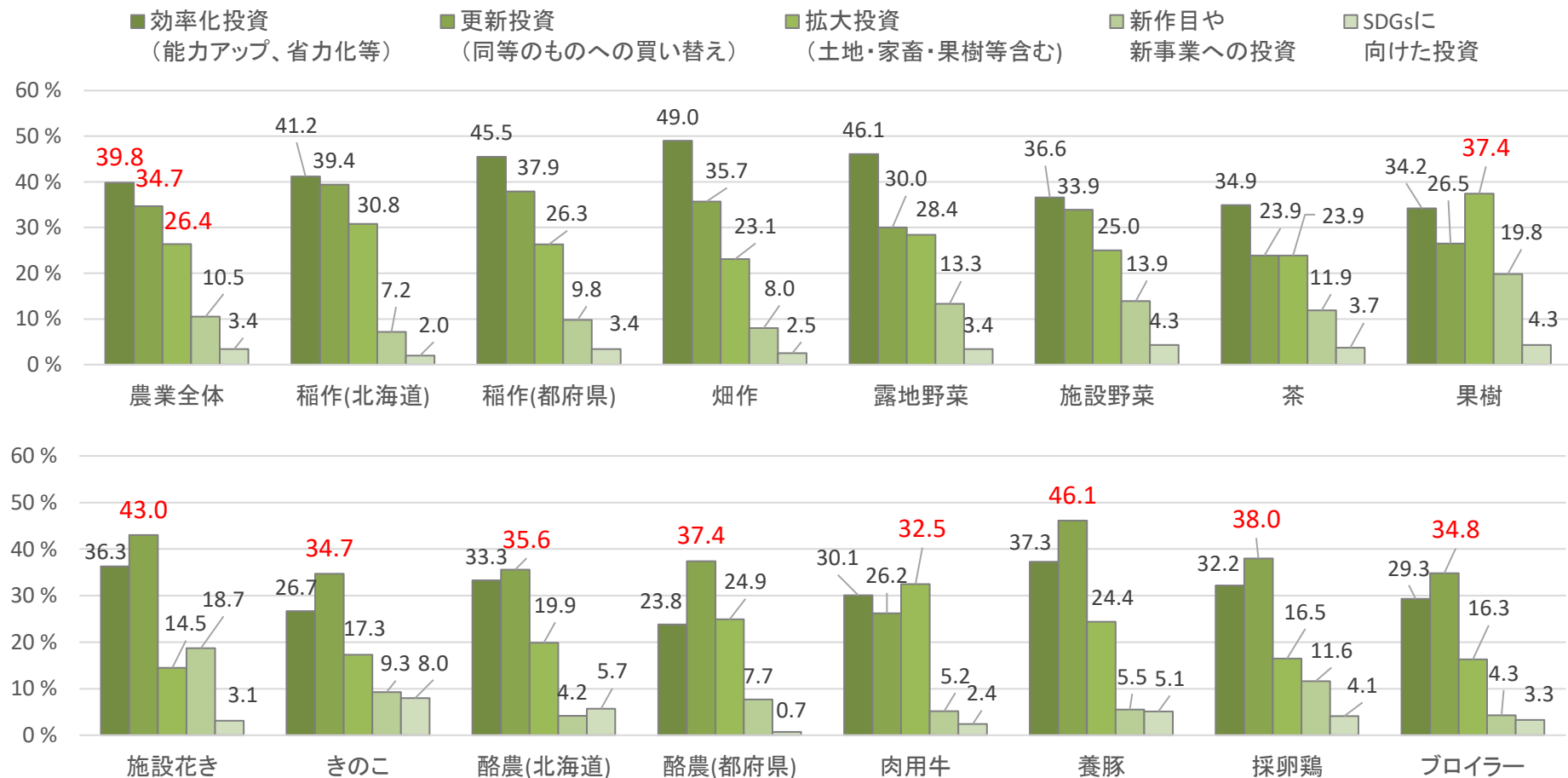




# I. 農業の景況(令和5年に実施した設備投資の種類、業種別)

- ・農業全体では「効率化投資」(39.8%)が最も高く、次いで「更新投資」(34.7%)、「拡大投資」(26.4%)となった。
- ・施設花き(43.0%)、きのこ(34.7%)、酪農(北海道:35.6%、都府県:37.4%)、養豚(46.1%)、採卵鶏(38.0%)、ブロイラー(34.8%)では「更新投資」が最も高くなった。
- ・果樹(37.4%)、肉用牛(32.5%)では「拡大投資」が最も高くなった。

※複数選択



# I. 農業の景況(令和5年に実施した設備投資の内容、業種別)

- ・全業種で「農機具・機械装置」が最も高くなった。
- ・稲作(北海道)と稲作(都府県)を比較すると、稲作(北海道)では「農地等の取得」、稲作(都府県)では「農地等の賃借」が高くなった。

※複数選択(各業種、上位2位までを赤字表記)

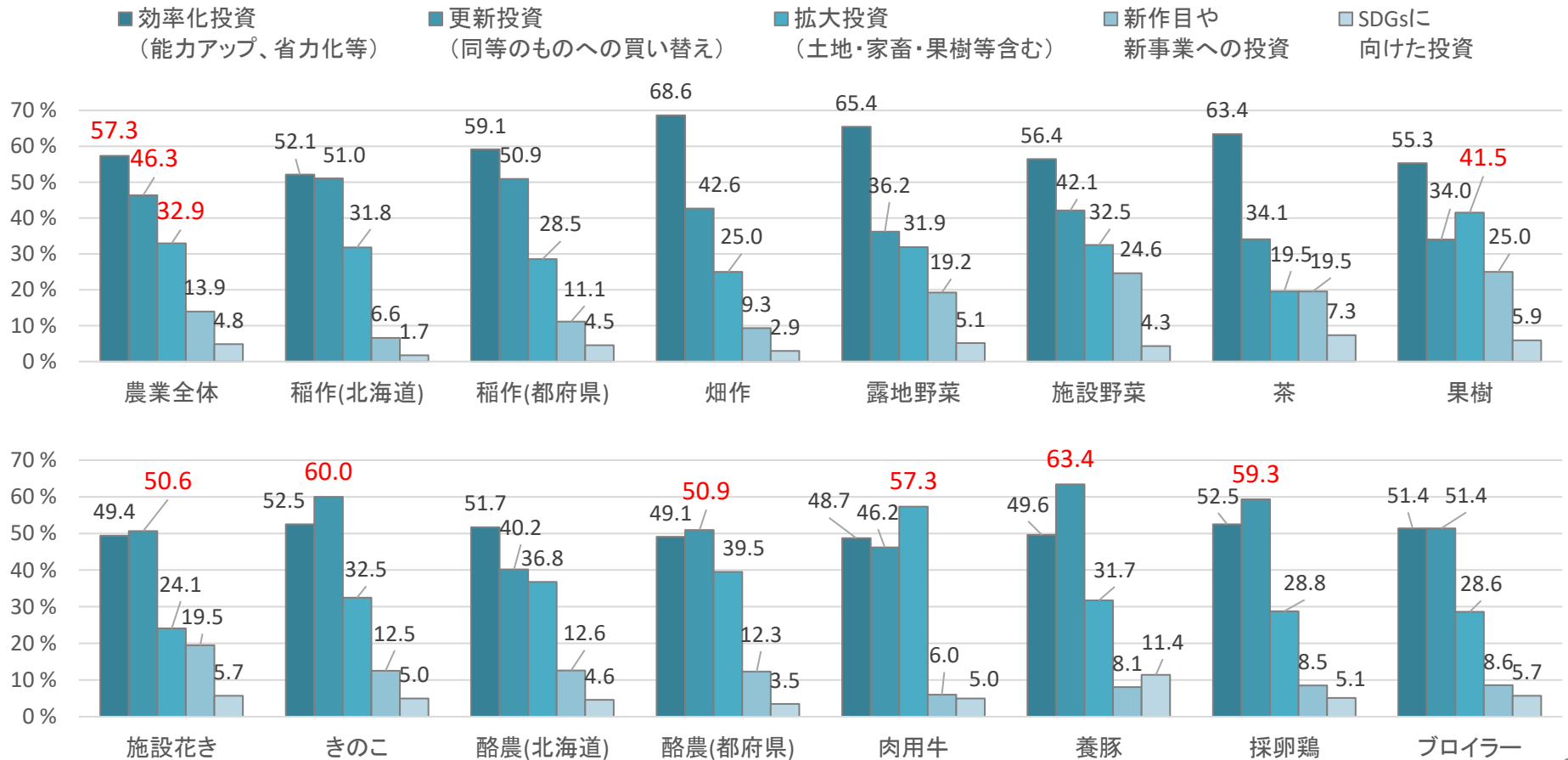
【単位:%】

業種区分	農機具・機械装置	建物・ハウス・構築物	農地等の取得	農地等の賃借	トラックなど車両	果樹・家畜	システム・ソフトウェア	その他
農業全体	73.1	26.0	20.8	16.2	19.6	7.7	7.0	9.4
稲作(北海道)	84.1	16.7	36.4	7.6	16.9	0.0	4.2	6.8
稲作(都府県)	85.6	18.3	19.0	24.2	16.5	1.4	4.9	8.5
畑作	86.9	14.1	23.2	14.6	16.0	0.2	6.3	5.7
露地野菜	77.6	25.6	22.5	19.5	21.6	1.1	7.1	8.2
施設野菜	54.5	48.4	15.3	16.0	20.9	2.3	10.4	11.9
茶	67.7	16.9	15.4	18.5	26.2	6.2	9.2	9.2
果樹	56.9	32.8	23.0	18.2	16.8	31.8	8.0	13.9
施設花き	53.4	41.8	11.6	10.3	17.1	2.1	11.0	15.1
きのこ	60.4	33.3	10.4	6.3	20.8	6.3	4.2	16.7
酪農(北海道)	69.3	24.0	21.8	8.9	16.8	7.8	5.0	11.2
酪農(都府県)	63.5	17.4	16.9	18.0	17.4	27.5	5.1	12.9
肉用牛	62.3	24.9	19.6	10.9	23.7	37.2	6.1	8.1
養豚	53.3	50.3	16.8	4.2	34.1	17.4	10.8	7.8
採卵鶏	57.8	51.8	12.0	1.2	28.9	7.2	9.6	13.3
ブロイラー	61.8	43.6	14.5	3.6	29.1	1.8	12.7	5.5

# I. 農業の景況(令和6年に実施予定の設備投資の種類、業種別)

- ・農業全体では「効率化投資」(57.3%)が最も高く、次いで「更新投資」(46.3%)、「拡大投資」(32.9%)となった。
- ・施設花き(50.6%)、きのこ(60.0%)、酪農(都府県:50.9%)、養豚(63.4%)、採卵鶏(59.3%)では「更新投資」が最も高くなった。
- ・肉用牛(57.3%)では「拡大投資」が最も高くなった。

※複数選択



# I. 農業の景況(令和6年に実施予定の設備投資の内容、業種別)

- ・農業全体では「農機具・機械装置」(64.9%)が最も高く、次いで「建物・ハウス・構築物」(29.9%)となった。
- ・養豚(53.4%)、ブロイラー(47.2%)では「建物・ハウス・構築物」が最も高くなった。
- ・「農地等の取得」は、稲作(北海道:25.9%)が最も高く、次いで肉用牛(20.2%)となった。また、酪農は稲作、畑作などの耕種と同水準になった。

※複数選択(各業種、上位2位までを赤字表記)

【単位:%】

業種区分	農機具・機械装置	建物・ハウス・構築物	農地等の取得	農地等の賃借	トラックなど車両	果樹・家畜	システム・ソフトウェア	その他
農業全体	64.9	29.9	17.6	12.4	16.0	6.4	5.3	14.6
稲作(北海道)	77.3	15.2	25.9	8.5	8.2	0.7	2.1	10.3
稲作(都府県)	76.8	21.5	16.3	16.0	14.0	0.9	3.6	14.7
畑作	79.6	14.1	17.8	8.6	15.1	0.7	5.3	11.8
露地野菜	63.4	32.1	19.4	16.1	18.8	1.9	6.9	13.9
施設野菜	51.4	50.7	16.7	16.7	16.7	1.4	7.6	17.8
茶	64.3	9.5	11.9	14.3	19.0	2.4	4.8	16.7
果樹	44.0	39.0	14.3	13.7	15.4	25.3	6.0	18.1
施設花き	51.1	40.9	13.6	9.1	15.9	0.0	10.2	15.9
きのこ	64.1	38.5	15.4	5.1	25.6	0.0	5.1	15.4
酪農(北海道)	54.2	28.9	19.3	8.4	13.3	8.4	6.0	19.3
酪農(都府県)	63.3	30.3	15.6	5.5	17.4	24.8	2.8	9.2
肉用牛	45.6	37.8	20.2	9.3	19.7	33.2	2.6	15.0
養豚	50.9	53.4	12.1	6.0	27.6	12.1	6.9	16.4
採卵鶏	55.2	44.8	6.9	6.9	24.1	6.9	13.8	12.1
ブロイラー	44.4	47.2	16.7	2.8	13.9	5.6	8.3	19.4

# I. 農業の景況(天気図)

業種	令和4年 実績	令和5年 実績	令和6年 見通し	業種	令和4年 実績	令和5年 実績	令和6年 見通し
農業全体	▲ 39.1	▲ 26.9	▲ 6.5	施設花き	▲ 3.2	▲ 19.5	▲ 5.2
稲作(北海道)	▲ 44.3	▲ 49.3	▲ 21.9	きのこ	▲ 59.8	▲ 7.7	▲ 1.3
稲作(都府県)	▲ 39.5	▲ 22.1	2.6	酪農(北海道)	▲ 87.7	▲ 56.8	▲ 11.9
畑作	▲ 31.8	▲ 49.2	▲ 27.8	酪農(都府県)	▲ 84.8	▲ 45.7	▲ 1.5
露地野菜	▲ 15.5	▲ 17.5	1.1	肉用牛	▲ 62.0	▲ 52.1	▲ 13.7
施設野菜	▲ 28.8	▲ 11.7	5.4	養豚	▲ 74.2	▲ 31.7	▲ 30.3
茶	▲ 15.5	▲ 31.2	▲ 3.8	採卵鶏	▲ 65.4	65.1	▲ 66.9
果樹	▲ 7.7	▲ 2.7	16.0	ブロイラー	▲ 41.1	▲ 14.7	▲ 19.0

調査様式  
農業経営の業況は  
1:良くなった 2:変わらない 3:悪くなった

今年(令和6年)の経営見通しは  
1:良くなる 2:変わらない 3:悪くなる

(注1) DI(Diffusion Index = 動向指数)について  
DIは、前年と比較して、「良くなった」の  
構成比から「悪くなった」の構成比を  
差し引いたもの。

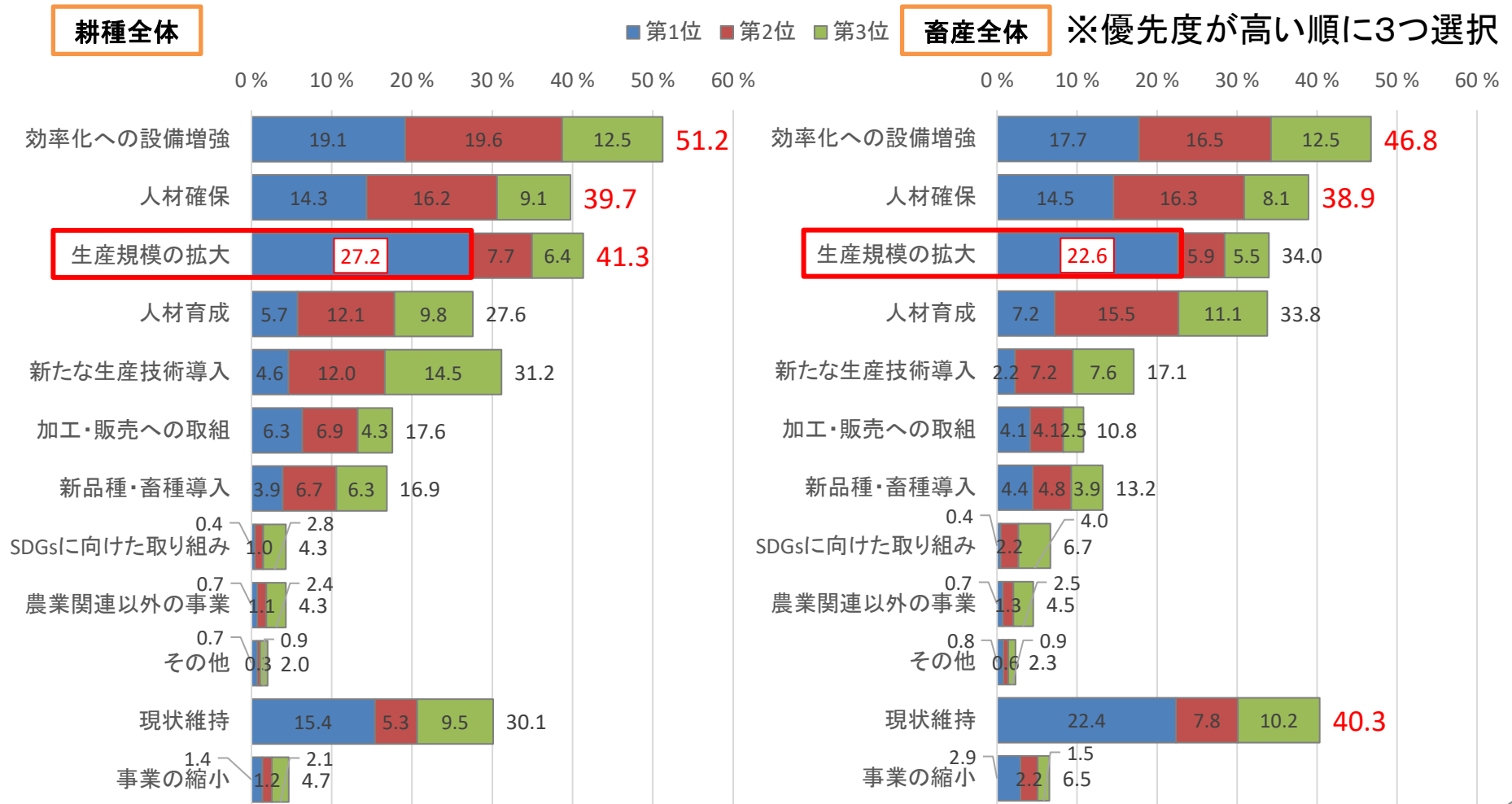
(注2) DI値に2.5以上の差異がある場合は  
上向き又は下向き矢印。2.4以内の場合は  
平行矢印。

(凡例)

≤ -50 < ≤ -20 < ≤ -5  
-5 < < 5 ≤ < 20 ≤

## II. 今後の経営について(今後3年間で重点的に取り組みたいこと、耕種・畜産)

- ・優先度が最も高い(第1位)取り組みは耕種(27.2%)、畜産(22.6%)ともに「生産規模の拡大」となった。
- ・第1位から第3位までの積み上げは、耕種では「効率化への設備増強」(51.2%)が最も高く、次いで「生産規模の拡大」(41.3%)、「人材確保」(39.7%)の順となった。畜産では「効率化への設備増強」(46.8%)が最も高く、次いで「現状維持」(40.3%)、「人材確保」(38.9%)の順となった。



## II. 今後の経営について(今後3年間で重点的に取り組みたいこと、耕種・業種別)

- ・業種別では茶、果樹以外の業種では「効率化への設備増強」とする割合が高くなった。
- ・果樹(52.6%)では「人材確保」が最も高くなった。
- ・茶(38.1%)では「現状維持」が最も高くなった。

※優先度が高い順に3つ選択(各業種、上位2位までを赤字表記)【単位:%】

業種区分	順位	効率化への設備増強	人材確保	生産規模の拡大	人材育成	新たな生産技術導入	加工・販売への取組	新品種・畜種導入	SDGsに向けた取り組み	農業関連以外の事業	その他	現状維持	事業の縮小
耕種	第1位	19.1	14.3	27.2	5.7	4.6	6.3	3.9	0.4	0.7	0.7	15.4	1.4
	第2位	19.6	16.2	7.7	12.1	12.0	6.9	6.7	1.0	1.1	0.3	5.3	1.2
	第3位	12.5	9.1	6.4	9.8	14.5	4.3	6.3	2.8	2.4	0.9	9.5	2.1
	合計	51.2	39.7	41.3	27.6	31.2	17.6	16.9	4.3	4.3	2.0	30.1	4.7
稲作(北海道)	第1位	18.4	10.9	31.6	2.6	8.0	2.4	2.1	0.5	0.3	1.1	20.4	1.5
	第2位	24.8	9.6	7.5	6.7	15.7	5.1	6.2	0.3	1.0	0.2	7.3	2.6
	第3位	10.4	7.3	5.9	6.5	21.2	1.8	5.2	3.1	2.3	1.1	9.5	2.9
	合計	53.7	27.9	45.0	15.8	44.9	9.3	13.5	3.9	3.6	2.4	37.2	7.0
稲作(都府県)	第1位	18.9	16.0	31.0	6.4	4.2	4.6	2.5	0.4	0.5	0.7	13.4	1.3
	第2位	20.3	16.2	8.7	13.6	10.4	6.6	5.2	1.3	0.6	0.3	4.9	1.1
	第3位	13.5	9.7	6.9	10.1	13.6	3.9	5.1	2.9	1.9	0.5	8.9	1.6
	合計	52.7	41.9	46.5	30.1	28.2	15.1	12.9	4.6	3.0	1.5	27.3	3.9
畑作	第1位	21.4	8.5	30.1	4.0	7.6	4.2	4.5	0.3	0.5	0.7	17.1	1.2
	第2位	22.8	13.3	8.5	8.0	16.6	3.8	8.1	1.2	0.8	0.3	6.1	1.3
	第3位	14.8	9.1	7.6	5.1	18.8	2.3	6.6	3.2	2.0	1.2	9.6	2.0
	合計	59.0	30.9	46.2	17.1	43.0	10.3	19.3	4.7	3.3	2.2	32.9	4.5
露地野菜	第1位	19.2	13.2	28.7	5.7	4.0	8.8	2.7	0.3	1.3	0.7	14.2	1.3
	第2位	21.3	19.2	9.7	11.5	11.4	5.8	4.7	0.6	1.4	0.3	4.8	0.7
	第3位	11.9	9.9	7.2	11.1	13.9	5.0	6.0	1.8	3.0	0.9	10.1	2.4
	合計	52.4	42.3	45.6	28.3	29.3	19.6	13.4	2.7	5.7	1.8	29.1	4.4
施設野菜	第1位	19.8	13.0	23.1	7.3	4.3	9.0	4.3	0.8	1.2	0.3	15.8	1.2
	第2位	13.6	19.1	6.3	12.8	12.5	9.3	7.6	0.7	2.0	0.5	6.0	0.8
	第3位	12.6	10.3	3.8	12.6	11.3	7.3	6.1	2.8	3.3	1.5	9.0	1.3
	合計	46.0	42.4	33.2	32.7	28.1	25.6	18.1	4.3	6.5	2.3	30.7	3.3
茶	第1位	13.3	16.2	17.1	3.8	1.0	16.2	1.9	1.0	3.8	1.9	21.0	2.9
	第2位	10.5	13.3	5.7	15.2	6.7	11.4	9.5	1.9	1.9	0.0	7.6	1.0
	第3位	13.3	5.7	1.9	9.5	7.6	5.7	4.8	1.9	4.8	1.0	9.5	3.8
	合計	37.1	35.2	24.8	28.6	15.2	33.3	16.2	4.8	10.5	2.9	38.1	7.6
果樹	第1位	16.4	21.3	19.4	6.7	1.9	11.1	10.2	0.5	0.0	0.3	11.3	0.8
	第2位	18.1	21.8	4.6	14.6	10.0	11.1	8.6	2.4	1.1	0.5	1.9	0.8
	第3位	10.0	9.4	6.7	9.7	12.4	7.0	11.6	2.7	3.5	0.8	11.9	2.2
	合計	44.5	52.6	30.7	31.0	24.3	29.1	30.5	5.7	4.6	1.6	25.1	3.8
施設花き	第1位	22.1	19.5	5.8	7.9	1.6	4.7	10.5	0.0	0.5	2.1	22.1	3.2
	第2位	10.0	15.3	5.3	16.3	12.1	6.3	15.3	0.5	1.6	0.5	4.2	1.6
	第3位	11.1	6.3	6.3	11.1	14.7	2.6	8.9	2.6	1.6	2.6	8.4	3.7
	合計	43.2	41.1	17.4	35.3	28.4	13.7	34.7	3.2	3.7	5.3	34.7	8.4
きのこ	第1位	28.4	12.2	13.5	8.1	2.7	14.9	4.1	1.4	1.4	0.0	10.8	2.7
	第2位	10.8	27.0	6.8	10.8	6.8	13.5	5.4	1.4	2.7	0.0	1.4	0.0
	第3位	14.9	1.4	9.5	20.3	8.1	4.1	5.4	2.7	2.7	1.4	6.8	1.4
	合計	54.1	40.5	29.7	39.2	17.6	32.4	14.9	5.4	6.8	1.4	18.9	4.1

## Ⅱ. 今後の経営について(今後3年間で重点的に取り組みたいこと、畜産・業種別)

- ・酪農(北海道:51.8%)、養豚(57.5%)、ブロイラー(53.8%)では「効率化への設備増強」が最も高くなった。
- ・採卵鶏(56.2%)では「人材確保」が最も高くなった。
- ・養豚(44.3%)、採卵鶏(48.8%)では「人材育成」とする割合が他業種と比べて高くなった。
- ・酪農(都府県:48.9%)、肉用牛(39.7%)では「現状維持」が最も高くなった。

※優先度が高い順に3つ選択(各業種、上位2位までを赤字表記)

【単位:%】

業種区分	順位	効率化への設備増強	人材確保	生産規模の拡大	人材育成	新たな生産技術導入	加工・販売への取組	新品種・畜種導入	SDGsに向けた取り組み	農業関連以外の事業	その他	現状維持	事業の縮小
畜産	第1位	17.7	14.5	22.6	7.2	2.2	4.1	4.4	0.4	0.7	0.8	22.4	2.9
	第2位	16.5	16.3	5.9	15.5	7.2	4.1	4.8	2.2	1.3	0.6	7.8	2.2
	第3位	12.5	8.1	5.5	11.1	7.6	2.5	3.9	4.0	2.5	0.9	10.2	1.5
	合計	46.8	38.9	34.0	33.8	17.1	10.8	13.2	6.7	4.5	2.3	40.3	6.5
酪農(北海道)	第1位	23.0	13.6	21.0	5.1	1.9	1.9	2.3	0.4	0.0	1.6	26.1	3.1
	第2位	17.9	15.2	5.8	12.1	9.7	3.5	3.9	3.9	1.9	1.2	8.6	2.3
	第3位	10.9	7.0	5.1	10.9	10.5	2.7	2.7	6.6	3.9	1.2	10.1	3.9
	合計	51.8	35.8	31.9	28.0	22.2	8.2	8.9	10.9	5.8	3.9	44.7	9.3
酪農(都府県)	第1位	17.5	10.9	25.2	4.4	2.9	4.7	4.0	0.0	0.7	0.7	27.0	1.8
	第2位	17.9	14.6	5.5	12.8	8.4	2.6	5.5	1.5	1.8	0.0	7.7	2.2
	第3位	10.2	7.3	4.7	8.0	9.1	1.5	4.7	2.9	2.2	0.7	14.2	0.4
	合計	45.6	32.8	35.4	25.2	20.4	8.8	14.2	4.4	4.7	1.5	48.9	4.4
肉用牛	第1位	13.6	10.6	25.4	7.3	3.0	3.4	7.1	0.4	0.2	0.7	23.5	4.9
	第2位	13.1	16.8	6.5	13.8	6.9	4.5	7.1	2.1	1.5	0.7	7.8	2.8
	第3位	12.9	6.7	5.0	9.7	6.3	2.4	6.5	3.5	2.2	0.9	8.4	1.3
	合計	39.6	34.1	36.9	30.8	16.2	10.3	20.7	6.0	3.9	2.4	39.7	9.0
養豚	第1位	21.5	19.6	22.4	11.9	1.4	3.2	3.2	0.9	1.8	0.5	12.3	1.4
	第2位	21.5	14.2	8.2	17.4	5.9	6.8	3.2	3.2	0.5	0.5	7.3	1.8
	第3位	14.6	9.6	6.8	15.1	9.6	3.7	2.3	3.7	0.9	0.9	10.5	0.5
	合計	57.5	43.4	37.4	44.3	16.9	13.7	8.7	7.8	3.2	1.8	30.1	3.7
採卵鶏	第1位	20.7	22.3	12.4	7.4	0.8	9.9	1.7	0.8	1.7	0.8	19.8	1.7
	第2位	14.9	24.8	4.1	22.3	3.3	4.1	0.0	1.7	1.7	0.8	5.0	1.7
	第3位	10.7	9.1	5.8	19.0	1.7	5.0	0.8	5.0	3.3	0.8	9.9	0.8
	合計	46.3	56.2	22.3	48.8	5.8	19.0	2.5	7.4	6.6	2.5	34.7	4.1
ブロイラー	第1位	19.4	17.2	20.4	7.5	2.2	3.2	2.2	0.0	1.1	0.0	25.8	1.1
	第2位	17.2	15.1	0.0	21.5	10.8	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0	11.8	1.1
	第3位	17.2	8.6	8.6	7.5	8.6	2.2	0.0	2.2	3.2	0.0	6.5	1.1
	合計	53.8	40.9	29.0	36.6	21.5	5.4	2.2	3.2	4.3	0.0	44.1	3.2



## Ⅱ. 今後の経営について(今後3年間で重点的に取り組みたいこと、経営主年齢別)

- ・経営主年齢区分が低いほど「効率化への設備増強」、「生産規模の拡大」が高くなった。
- ・経営主年齢区分が高いほど「事業の縮小」が高くなった。
- ・「人材確保」とする割合は年齢区分による差がない。

※優先度が高い順に3つ選択(各区分、上位2位までを赤字表記)

【単位:%】

経営主年齢区分	順位	効率化への設備増強	人材確保	生産規模の拡大	人材育成	新たな生産技術導入	加工・販売への取組	新品種・畜種導入	SDGsに向けた取組み	農業関連以外の事業	その他	現状維持	事業の縮小
全体	第1位	18.8	14.5	26.1	6.1	4.0	6.0	4.0	0.4	0.7	0.7	16.9	1.7
	第2位	18.8	16.3	7.3	13.0	10.8	6.3	6.2	1.4	1.2	0.4	5.8	1.4
	第3位	12.5	8.9	6.2	10.2	12.8	3.9	5.7	3.1	2.5	1.0	9.6	1.9
	合計	50.2	39.7	39.6	29.3	27.6	16.2	16.0	5.0	4.5	2.1	32.2	5.1
49歳以下	第1位	20.3	12.8	30.0	6.4	4.7	6.8	3.2	0.4	1.0	0.8	12.6	1.0
	第2位	21.3	16.6	9.4	12.0	10.6	7.8	6.2	1.5	1.8	0.5	5.5	0.7
	第3位	15.0	10.4	8.0	11.4	14.3	4.9	5.4	3.2	3.2	0.9	8.3	1.0
	合計	56.6	39.8	47.3	29.8	29.5	19.5	14.9	5.1	6.1	2.1	26.4	2.7
50～59歳	第1位	21.4	14.4	24.4	5.7	4.4	5.5	4.4	0.5	0.8	0.8	16.7	1.0
	第2位	18.5	16.2	8.2	12.3	12.6	5.5	7.1	0.9	1.2	0.5	6.7	1.3
	第3位	13.0	8.2	6.6	10.1	12.9	4.0	7.0	3.4	2.8	1.2	10.9	2.2
	合計	52.9	38.8	39.2	28.0	29.9	15.1	18.5	4.8	4.8	2.5	34.4	4.5
60～69歳	第1位	16.9	14.7	25.2	5.8	3.3	6.0	4.8	0.3	0.7	0.6	19.3	2.4
	第2位	19.1	16.6	6.1	12.8	10.6	5.1	6.6	1.6	1.0	0.3	4.7	1.7
	第3位	11.2	8.4	5.2	9.4	13.0	3.2	6.1	3.2	1.8	0.8	9.7	2.6
	合計	47.2	39.8	36.4	28.0	26.9	14.3	17.5	5.1	3.5	1.8	33.7	6.7
70歳以上	第1位	15.0	17.3	22.8	6.7	3.5	5.5	3.5	0.6	0.2	0.6	21.0	3.2
	第2位	15.4	15.3	4.2	16.1	8.9	6.1	4.3	1.5	0.7	0.3	6.5	2.2
	第3位	9.3	8.3	4.0	8.8	9.8	3.4	3.9	2.8	1.9	0.8	9.8	2.1
	合計	39.7	40.9	31.0	31.6	22.2	15.0	11.7	4.9	2.8	1.7	37.3	7.5

## II. 今後の経営について(関心がある取り組み、業種別、経営主年齢別)

- ・農業全体では「スマート農業」(54.2%)が最も高く、次いで「事業承継」(33.9%)となった。
- ・茶(41.3%)では「有機農業」が、ブロイラーを除く畜産では「耕畜連携」が他業種と比べて高くなった。
- ・経営主年齢区分が低いほど「スマート農業」、経営主年齢区分が高いほど「事業承継」が高くなった。

※複数選択(各業種及び区分、上位2位までを赤字表記)

【単位:%】

業種区分	スマート農業	事業承継	耕畜連携	有機農業	輸出・海外展開	HACCP・GAP等認定
農業全体	54.2	33.9	22.4	19.8	13.5	10.2
稲作(北海道)	70.4	28.3	19.6	18.6	12.7	5.0
稲作(都府県)	60.8	37.2	19.5	25.8	12.0	8.4
畑作	74.0	29.7	18.1	15.8	7.5	6.4
露地野菜	58.0	26.5	16.2	26.1	10.6	15.1
施設野菜	55.3	33.9	8.9	23.0	17.9	14.1
茶	34.8	31.5	4.3	41.3	28.3	12.0
果樹	54.8	41.8	4.9	20.5	19.3	8.6
施設花き	50.6	43.8	3.1	13.1	15.6	3.8
きのこ	47.0	40.9	4.5	21.2	18.2	18.2
酪農(北海道)	44.9	27.5	39.4	16.9	6.8	14.0
酪農(都府県)	31.1	38.3	58.3	8.9	5.1	6.0
肉用牛	28.7	31.6	54.9	8.4	22.8	8.6
養豚	34.4	33.3	47.4	4.2	7.8	19.8
採卵鶏	23.3	34.0	35.0	6.8	22.3	28.2
ブロイラー	40.3	51.9	24.7	3.9	3.9	2.6
経営主年齢区分	スマート農業	事業承継	耕畜連携	有機農業	輸出・海外展開	HACCP・GAP等認定
49歳以下	62.5	13.9	26.7	20.1	17.7	13.5
50～59歳	59.3	30.0	21.1	17.4	13.8	10.1
60～69歳	47.7	48.5	20.7	19.1	11.6	8.3
70歳以上	41.5	53.4	19.0	24.5	7.9	6.8